

水戸商工会議所

会頭 和田 祐之介



特集 新春座談会

北関東から発信！

北関東三県交流のメリットを考える

前橋商工会議所

会頭 曾我 孝之



宇都宮商工会議所

会頭 北村 光弘



コーディネーター

前橋商工会議所広報特別委員会

委員長 片倉 正彦



新年おめでとうございます。

本年の新春座談会は、北関東三県の県庁所在地商工会議所会頭が顔を合わせ、「北関東から発信！～北関東三県交流のメリットを考える」をテーマに語り合いました。北関東自動車道の開通で、三県間の交流はこれまで以上に進展することが期待されています。そこで、各市・各県の状況を踏まえて、経済や医療、教育、文化などさまざまな面での活力向上のために、今後どのような協力・連携が図られるのか、また、北関東地域の将来像について、活発な意見が交わされました。

今も残る震災の影響

——昨年は未曾有の大震災が発生し、北関東も大きな被害を受けました。まず初めに、被害の状況と現在の様子についてお話しください。

和田 大震災当日は「水戸の梅まつり」の最中で、多くのお客様がいらしており、水戸は大変混乱いたしました。私は当所の会員企業のことがとにかく気がかりで、職員全員で、約4,000社の全企業を回るよう指示を出しました。約1カ月ですべての巡回を終えましたが、やはり、かなりの企業が被害を受けておりました。全半壊は約4%にあたる73社、一部損壊を含めると実に65%に及びました。当所では至急、相談窓口を開設し、BCP（事業継続計画）に従って対応をいたしました。しかし、先日、震災後の復旧状況をアンケート調査しましたところ、73%の企業がいまだに災害が尾を引いているとの結果でした。先々、どのような形になるのか見当もつかないという企業も多く、今も後遺症に悩まされているという状況です。

北村 宇都宮では震度6強を観測し、一部地域で電気・水道などのライフラインが寸断されました。特にJR宇都宮駅よりも東側の地域で大きな被害を受けました。工業団地等では一時操業を停止した事業所もありました。しかし復旧も早く、4月までは経済活動が停滞しましたが、それから順調に回復に向かっていったという感じです。当所としても全会員企業を対象に、被害状況調査の実施や、震災復興支援ガイドブックの発行などを行いました。また、栃木県内では日光・那須塩原などの観光を主な業としている地域では、原発の放射能汚染の風評被害が大きく響き、現

在でも農産物などに大きな影響を与えています。

曾我 群馬県は幸い、茨城、栃木と比べると震源地から離れていますし、もともと大変地盤が強い地域なので、震災の直接的な被害は少なかったです。しかし、計画停電のダメージは大きかったです。企業の生産性も生産量もかなり低下しました。また、東北の被害に伴うサプライチェーンの寸断も大きな痛手でした。観光に関しては、地震直後から6月までは深刻なダメージを受けましたが、7月から9月にはJRと行政による「デスティネーションキャンペーン」が行われたため、伊香保や水上などの温泉地はかつてないほど賑わい、一息ついている状況です。しかし、農産物は原発事故の風評被害で、今もなお深刻な状況です。

栃木、茨城、群馬の特性とは

——それでは本題の「北関東三県の連携」に入りたいと思いますが、その前に、それぞれの地域の特色を知っておきたいと考えます。ぜひ、ご自身の地域の強みをアピールしていただければと思います。

北村 宇都宮といえば餃子・カクテル・ジャズ・大谷石など観光資源は多くありますが、なんとといっても「餃子」が一番有名なのではないでしょうか。県外から高速道路代や電車を払って、一皿200円ぐらいの餃子を食べに来てくださるのです。宇都宮餃子がこれだけ有名になったのは、当所が中心市街地に餃子の店「来らっせ」を出店し、熱心に宣伝をしたことが大きかったと自負しています。宣伝と言ってもお金を払って広告を出すのではなく、マスコミの方々が興味を引きそうない



①餃子とカクテル ②梅が満開の偕楽園 ③宇都宮「来らっせ」 ④黄門料理 ⑤水戸黄門まつり (写真提供: 水戸・宇都宮商工会議所)

ベントをこまめに企画し、テレビや新聞にユースとして取り上げてもらうのです。こうして、何度もマスコミに登場することが非常に効果的でした。また、宇都宮餃子の年間支出金額は15年連続で全国1位です。この全国1位というの人も呼び寄せる絶大な効果を持っているようです。他に、栃木県としては日光東照宮や那須などの有名な観光地や、いちご・かんぴょうなどの農作物もあります。これらも他県に負けない強みですね。

和田 茨城県は農産物が豊かで、生産高は全国で北海道に次いで第2位です。また、日立市・ひたちなか市を中心にして、工業も盛んですし、つくば市は先端技術の拠点になっています。水戸を中心とした地域は文化、学問、商業の街と、多彩な顔を持っています。そのうえ、茨城空港や茨城港もあり、インフラが整備された非常に魅力的な県だと思います。また、歴史的には何と言っても水戸黄門様がお馴染み。そして第9代藩主の徳川斉昭公が作った弘道館、偕楽園も全国的に知名度が高いですね。

曾我 前橋市の大きな強みは医療が充実していることですね。重粒子線治療施設を持つ群馬大学医学部附属病院をはじめ、市内には大型の総合病院が多く、開業医も質・数ともに高い水準を誇ります。医療の充実はこれからの高齢化社会を考えると、安心して住めるまちの条件の一つだと思います。また、前橋は古くから製糸業が盛んなうえ、中島飛行機など歴史ある工場もあったので、今でも「ものづくり」に長けている中小企業が多いのも一つの強みです。他に、前橋をはじめ群馬県は天災による被害が少ないため、首都圏のバックアップ機能を担うには最善の受け皿では

ないかと思えます。あとは、温泉をはじめ、山や川など自然に恵まれた環境も魅力です。——食は人を惹きつける大きな素材ですよ。茨城、群馬のご当地グルメもご紹介いただけますか？

和田 水戸黄門様は先進的、冒険的な食べ物をお好む食通だったようです。水戸には黄門様の食べた古文書を分析し、研究していた料理人がいらつしやいましたが、その方が亡くなられましたので、当所が「黄門料理」という商標と、料理のレシピを受け継ぎ、現在、水戸市内の9店舗で「黄門料理」を提供しています。食材は地産地消で旬のもの、安全安心なものを使うという決まりがあります。その「黄門料理」を水戸の郷土料理、それも今はやりのB級グルメではなく殿様がお召し上がりになった料理ということで、少しレベルを上設定しましてPRしている最中です。

曾我 前橋は養豚が盛んです。そこで、6年ほど前から、豚肉料理を前橋の名物料理にしようと、「TONTONのまち前橋」というキャッチフレーズを打ち出し、豚肉料理を売り出し始めました。3年前から県産の豚肉を使った創作料理を競う「T1グランプリ」というイベントも開催しています。こちらはB級グルメに近い動きなのですが、今年は市内の飲食店78店舗が参加し、その規模は年々増大しています。

北関東の知名度の低さはなぜ？

——今っかがただだけでも、北関東三県はそれぞれに大変魅力があるように感じます。しかし、全国的な知名度やブランド力は非常に低いのが現状です。ブランド総研の「地域ブランド調査」、日

経リサーチの「地域総合評価」共に北関東三県は40位台です。その理由はなぜだとお考えですか？

北村 関西には、日本史の教科書に出てくるような、歴史上有名な場所が多いですよ。しかも関西の方はアピール力が強い。それに比べて、北関東人の真面目で謙虚な気質は他に誇れるものなのですが、反面、アピール力が不足しているように感じます。

曾我 北関東三県の県名は確かに全国的にあまり馴染みがないかもしれません。しかし、個々の地名でいうと、水戸や宇都宮を知らない人はほとんどいませんし、草津も全国的に非常によく知られています。ただ草津が群馬県にあるということがわからないだけで…。個の知名度の高さを、県の知名度の高さにとり比べると、つなげていくかが、ブランド戦略としては大きな課題になるのではないかと思います。

和田 数カ月前、県民の郷土愛を調べたアンケートの結果が出たんです。それを見て、茨城の知名度と魅力が低い理由がわかったような気がしました。茨城県民の郷土愛は全国46番目で下から2番目。県の魅力がないということは、住民の郷土愛が薄いということにリンクしているのではないのでしょうか。三県には魅力的なものがいっぱいあります。それなのに表現力が下手だったり、郷土愛がないことが災いして、全国へ発信する力が弱かった。宝の持ち腐れという感じがします。発信事業をしながら、北関東からさらに広い範囲に打って出ることが必要なのではないのでしょうか。

北関東自動車道への期待

—3月19日には北関東三県を結ぶ北関東自動車道が全線開通しました。この道路に寄せる期待についてお話しください。

北村 北関東自動車道を利用すれば、宇都宮から前橋や水戸へは1時間30分で到着します。以前の半分以下の時間です。移動時間が大幅に短縮されたことにより、さらに物流や観光などが発展することを期待しています。特に観光面では、各県の魅力を最大限に発揮できるような、広域的な観光ルートづくりも必要だと思っています。

曾我 北関東自動車道の開通で、人的交流と物的交流は非常に回りやすくなると思います。そこで今後は、北関東を一つのゾーンとして捉え、経済活動、教育活動などいろいろな事業を仕掛けていくことが大切ではないでしょうか。対東京や今後の道州制を考えたときに、北関東三県は絶対にスクラムを組むべきだと思います。また、群馬県にとっては北関東自動車道の開通で東北が近くなったというのもありがたいですね。

和田 北関東三県を合わせると、面積もかなり広いですし、人口は700万人になります。曾我会頭がおっしゃるように、北関東自動車道を利用し、北関東三県が連携をして、

新たなものを作り出すべきだと私も考えます。栃木、茨城、群馬の知名度、ブランド力向上のためにも、それぞれの地域の魅力を高めて全体で「北関東」という形でアピールしていくことが大切でしょうね。

地域連携の形

—連携という言葉が出ましたが、三県の連携について、具体的にどのようなことから始めるべきだとお考えですか。

曾我 以前から、商工会議所青年部、青年会議所、ロータリークラブなどは宇都宮、水戸、前橋間で交流を進めています。でも距離的に離れていたのが、今までは会合の時くらいしかお付き合いがなかった。北関東自動車道ができたことで今までの良い遺産が生かされることになると思います。まずは経済界では私たち、商工会議所の会頭同士が交流を深めることによって、商工会議所の議員や職員の交流に広がり、三県の交流につながればいいと思います。折しも、和田さんは昭和15年生まれ、私は16年生まれ、北村さんは17年生まれと年齢的にも近く、いろいろご縁も深いようですので、ぜひともよろしくお願ひいたします(笑)。

和田 今はもう、一つの街だけで経済活動ができるような時代ではありません。もともと広域で、生き残る道を探すことは絶対に必要

です。曾我会頭もおっしゃったように、商工会議所青年部も青年会議所も三県で連携してすでに動いています。そういう意味では商工会議所の方は遅れ気味かもしれません。スピードをあげて連携事業を展開する必要があります。と思います。私は、北関東三県合同で「全国商工会議所観光振興大会」を開催してはどうかと思えます。平成22年度は青森、23年度は北九州と下関が連携をして開催されましたが、「北関東」という地域でぜひ、観光振興大会を開催してみたいですね。将来的には、三県の観光協会のような組織ができれば理想的です。また、三県で経済人会議を開くのもいいですね。

—観光大会や経済人会議などの話が出ましたが、そのほかに何かありますか？

曾我 北関東三県ともに、製造業はそれなりに全国的な位置付けですし、新技術、新産業の創出も共通の大きなテーマだと思います。そういう意味で私は、産学連携を三県でやっていくことが大事なのではないかと思えます。

北村 私は、潜在能力の高い北関東三県の立地企業が合同で、ビジネス交流会や商談会、マッチング事業、大型見本市などを開催できればと考えています。雇用の拡大や三県の魅力ある産業集積のPRにもつながるし、企業誘致の促進にもつながるのではないでしょう





か。また、「食」に関してもぜひ、連携したいですね。食は人を惹きつける大きな要素ですから。三県の特産品をコラボさせた新商品を発売することにより、北関東三県の食の安全や魅力を全国に発信することができるのではないかと思います。水戸(M)・宇都宮(U)・前橋(M)の商工会議所青年部のMUM事業で取り組んだ「きたかん餃子」などは、その先駆けとなっているのではないのでしょうか。

和田 当所では、北関東道の開通と茨城空港の開港を機に、「地域間交流委員会」という新委員会を作りました。その委員長が提案しましたのは、「北関東三県県庁所在地商工会議所会員ビジネスマッチングフェア」の開催です。商工会議所のネットワークと信用力を活かして、地域間交流を盛んにし、新たなビジネスチャンスをつくるために開催してはどうかという案です。そのフェアを水戸、宇都宮、前橋の商工会議所で持ち回りで開催してはどうだろうかと検討しています。そういったことが進めば三県の交流は確実に深まるのではないかと思います。

北関東地域の理想像とは

——さまざまな独創的なご意見、ありがとうございます。最後に北関東地域の理想像について、お考えを聞かせていただけますか？

北村 観光や医療、産業などさまざまな分野での連携が進むことが理想ですね。特に、医療面では、県域を越えた広域連携が円滑に実施されれば、救命率の向上や後遺症の軽減に大きな効果が期待されます。県域を超えて高度な医療を受けられることは、三県の県民にとって非常に有益なことだと思います。

和田 今までは北関東がこぞって、東京に顔が向いていたのですが、北関東で大きな1つの行政圏ができればいいと思います。実は、私としてはこの三県の連携は非常にうまくいくと思っています。というのは三県の文化が似ているからです。言葉も似ていますし、生活レベルも似ている。また、三県を合わせた地形が実にいい形で、アメリカ合衆国にそっくりなんですよ(笑)。

曾我 ぜひ北関東三県を一つにしたゾーンの独自のネーミングがほしいですね。馴染みやすい名前があると、一般にも普及しやすくなると思います。

北村 北関東自動車道によって、自動車道路はつながりましたので、今度は鉄道に期待を寄せています。これまで三県が集まる場合、どこが一番近いかというと、上野や大宮でした。でも水戸から前橋が乗り換えなしの直通で鉄道がつながれば、時間的にはさらに近くなります。

曾我 お陰さまで北関東自動車道が開通して三県がより身近になることができました。今後は両毛線の水戸線への乗り入れができるよう積極的に働きかけ、鉄道路線の更なる活性化・充実が図れればと考えます。これまで皆さんが話しされたように、三県の絆を強くしてきます。人的・知的等さまざまな交流を図りたいですね。

——ぜひ、連携を広げて魅力的な地域形成を推進していただきたいと思います。本日は長時間にわたり、貴重なご意見をありがとうございました。